

<p>目指す学校像</p>	<p>1 建学の精神 本学園は、日本国民としての常道に従い、人は生きて資本資産なりの理想に基づき、建学の精神を「人間是宝」と決めました。この精神は、生徒の将来を考え一人一人の内在于る可能性をいかに開花させるかということにあります。この精神こそ、本学園建学の理念であり、本校教育の根源をなすものであります。 建学の精神「人間是宝」校訓「今日学べ」の具現に努め、文武芸芸四道の進学校を目指します。</p> <p>2 教育使命 若人の未来を考え、次のことを実践することを教育使命としています。 (1) 内在する可能性の開発 (4) 世界文化経済発展の先覚者としての自覚 (2) 創造する心と知性の育成 (5) 平和社会に貢献する奉仕の心の育成 (3) 人間性豊かな徳操の涵養</p>	
<p>学校教育目標</p>	<p>1 けじめある心を育てる 2 自己開発に努力する心を育てる 3 創意工夫する心を培う</p> <p>4 敬愛と感謝の心を育てる 5 健全な体と心をスポーツと文化で育てる</p>	

学 校 自 己 評 価					学校関係者評価				
年 度 の 目 標					年 度 評 価				
年 度 評 価					実施日 令和5年5月23日				
重点目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からのご意見・要望	評価
●定員の確保を図る。 ●入学者の質の向上を図る。 ●医学クラス・難関大クラス・進学クラスの学力向上を図る。	●学則定員は、各学年120名、3学年合計で360名であり、令和4年度は429名である。(充足率:119%)	●志願者数の増大 ●入学定員の遵守 (100%～105%)	●志願者の増加と質の向上 ・学校説明会 年6回実施 ・体験学習会、入試問題学習会等 年3回実施 ●入学定員の確保 ・入試改革を行う。	●説明会への参加者が増加しているか。 ●受験者数の増加と合格者の学力が向上しているか。 ●入学定員が厳守されているか。 ●説明会で学校の内容が的確に伝達されているか。	●説明会等の参加組数はのべ891組であった。(昨年度対比110%) ●志願者はのべ4,590名で昨年に続いて過去最高であった。(昨年度比109%) ●入学者は119名で、定員を1名下回った。(医学クラス:10名、難関クラス38名、進学クラス71名)以上の取り組みにより、コロナの影響も落ち着き入学者のほぼ定員確保と、昨年と同様に質の向上を図ることができたが、全体ではやや定員を下回った。	A	●学校説明会、入試説明会、体験学習会等学校を知るための内容について新型コロナウイルス対策を含めた工夫、改善を行う。また、説明会の参加組数1,000組の達成、志願者4,500名以上、入学者120名以上の達成。(医学クラス:20名、難関大クラス60名以上) ●生徒数は345名となり、充足率は95.8%となった。今後も定員をしっかりと守り、入学者の質の向上に努める。	●情報収集において、WebやHPが主流の現代では、綺麗でわかり易く充実したHPが、志願者確保のためにも大切である。 ●説明会等の参加人数に繋がる生徒・保護者・学校が一丸となれる情報提供があると安心できる。 ●志願者増加と定員の遵守という難しい選択の中、ほぼ定員を満たしていることは質の向上にも繋がり評価したい。少子化が進む中安定した生徒獲得に更なるPRが必要だと思う。	A
●学習と部活動の両立と、家庭学習の習慣化を図る。 ●高校一貫部の大学進学を支援する。 ●授業力の向上を図る。 ●いじめ防止等人權教育の充実を図る。	●中高一貫部の難関私立大学の合格実績は24名だった。国公立大学が7名であった。 ●文武芸芸四道の進学校をめざし、学習指導・進路指導を充実させ、進学実績を向上させることが課題である。そのために中学校では基礎学力の定着を徹底する指導方法を確立させる。 ●人間関係のトラブル等から、若干のいじめは発生している。	●学力向上の具体的方策 ●中高一貫部の医学・国公立大学・難関私立大学の進学実績の向上 ●授業力向上のための施策 ●いじめ防止等人權教育の施策	●classiによる生徒の家庭での学習状況把握する。生徒は計画、実行、反省のPDCAサイクルを確立させる。 ●進路ガイダンスなどキャリア教育の充実を図る。 ●生徒が主体的に学ぶ授業を展開するために研究授業週間と授業参観を計画的に行う。 ●探究学習の充実を図る。 ●授業アンケートによる評価を取り入れ授業改善に努める。 ●いじめ・体罰アンケートによる実態把握、教員研修を行う。	●教職員が結果を共有し、PDCAのサイクルが確立されているか。 ●医学・国公立大学・難関大学合格者数は増加しているか。 ●大学進学率は向上しているか。 ●学力推移調査で学力は向上しているか。 ●学習成果を発表しているか。 ●適切ないじめ対応がなされているか。	●国公立9、GMARCH22、日東駒専20名他多数の合格を果たした。 ●進学実績は前年度実績を上回ることができた。 ●学力推移調査は上位の伸びとともにD3ランクの割合は全体に減少しており、特に3年生、1年生の状況が過年度比較から向上している。 ●授業評価アンケート結果を踏まえ管理職が授業見学及び指導を実施し、改善に役立った。 ●いじめ認知を積極的に言い、早期発見・対応に努めることができています。	A	●国公立・難関大学合格者数の具体的な目標値を設定し、授業内容の研究・改善及び進路指導を充実させる。 ●キャリア教育の充実を図り、大学進学のための学部・学科の指針を明確にする。 ●進路指導で、中高の連携を図り、6年間を見通した進路指導を確立する。 ●中高の枠を超えた連絡協議会を開き情報交換を行う。 ●授業力向上を第一とする。また、Classi導入による課題の配信、学習状況の把握と、0限目・7限目補習の充実を図る。 ●引き続きいじめの早期発見・早期対応と、発生の防止に努める。	●前年度を上回る進学実績のために、基礎学力の定着と中間層の学力向上に向けた教員・生徒の信頼関係がより一層大切である。高校一貫部との連携で国公立大学他進学実績の向上の方策を引き続き期待したい。 ●いじめ対応では、常に一人ひとりのフォローと手厚く寄り添ったサポートをお願いしたい。 ●私立の中高一貫校が増える中、進路実績は受験生にとっては、重要な選択肢となるが、入学して6年間安心して学校生活を送れるよう、いじめ等の早期発見・対応に力を入れていただきたい。	A
●部活動の充実	〈部活動数〉 男子 運動部18部・文化部9部 女子 運動部14部・文化部10部 〈加入率〉 全校生徒の89.7%の生徒が部活動に加入した。 今後も各部の活動内容の更なる充実を図る。	●全国大会・関東大会への出場数 ●部活動への支援体制の強化	●優秀な選手の確保 各部の監督・コーチが少年団やクラブ組織の指導者との連絡・連携を密にし、学業も優秀な選手の勧誘を行う。 ●教員の指導力の向上 各部の監督・コーチが指導力向上のための研修を深める。 ●指導体制の充実 各部の監督・コーチと担任・教科担任との連絡を密に取り、勉学との両立を図る取り組みを行う。	●全国大会への出場5部以上が達成されたか。 ●関東大会への出場5部以上が達成されたか。	●全国大会への出場14部(個人・団体) 全国優勝部 2部、全国入賞部 9部 ●関東大会への出場9部(個人・団体) 優勝 6部、入賞部 6部 ●部活動加入率(3月末) 89.7%(前年比-3.2%) ●コロナの影響も落ち着き多くの大会が概ね感染対策を取りながら通常開催に戻っており、日頃の練習成果を大会の大舞台でも発揮できた。	A	●今後も更に各部の監督、コーチが少年団やクラブ組織の指導者との連携を密に取り優秀な選手の勧誘を行う事が大切である。同時に指導者の資質の向上に努め指導力向上のための研修を深めることが必要である。 ●生徒の学習と部活動との両立を図るため、各部の顧問が担任、教科担当者との連携を密に取り、生徒の現状把握と学力向上の手だてを図る。 ●部活動を通じてさらなる「人間力の育成」を図り、本校の教育目標を達成していく。 ●高校の部活動との連携を図り、可能な限り中高一貫指導体制を確立する。 ●今後も研修を継続し適切な指導を心掛け、体罰バウハラ等の問題が発生しないよう取り組む。	●各部活動が力を発揮し、素晴らしい成果を収めた。中高一貫の指導体制を確立して、日々の練習強化に努め、更なる大会での成果を応援したい。 ●生徒達は部活動を通じて、協調性や考え方を育むことができています。 ●公立中の部活動については、地域への移行を進め教職員の負担軽減が叫ばれている。学力と体力のバランスを取る意味でも部活動の指導は欠かせない。文武芸芸四道を進めることが社会人としての資質向上に繋がると思う。	A
●学校改革	●医学クラスの教育体系の構築 ●0、7時限演習の活用 ●長期休業中の補習の充実 ●キャリア教育の充実 ●基礎学力の充実 ●教員研修の充実 ●ICT教育の充実 ●探究的学習の充実と継続	●医学クラスの状況 ●演習の任意プログラムとキャリア教育の進捗状況 ●埼玉栄SDG'sの取組みを通じた探究的学習 ●ICTのハード・ソフト面の実績	●医学クラスについては、平成28年度から募集を開始。放課後に外部の指導を取り入れる計画作成 ●将来の生き方なり方を踏まえた進路指導を統括し、生徒の適性を考え担任と協力し、統一感をもって指導する。 ●朝、放課後の学習システムを構築し、実施する。 ●埼玉経済同友会と連携したキャリア教育を充実させる。 ●短焦点プロジェクターを活用したICT教育を推進する。	●各改革案が実行されているか。	●全体の学力向上 ●0、7時限の補習体制は部活動と両立を図ることを大前提に理数セミナー(医学対応)指導に力を入れていく。参加人数も徐々に増えている。令和5年度からは、医歯薬看護系希望生徒までの体制に拡充することになった。 ●各学期に1回外部講師を招いて教員対象の人権教育を実施した。また、ベネッセによるクラッシーの利用方法や学力推移の研修なども実施された。 ●短焦点・Ipadを活用し、学習を深化させて学力向上に繋げることができた。	B	●医学クラスの募集活動と、カリキュラムの提示。 ●放課後補習の検証と更なる発展的施策を行う。 ●教育課程の検討とPDCAサイクルの確立。 ●6年間一貫したキャリア教育の確立をめざす。 ●授業、補習、部活動、学校行事等すべてを関連させ、学校全体で体系的に教育内容を充実させる。 ●ICT教育の指導力の向上を目指して研修を取り入れていきたい。	●医学クラス向けの外部講師による講座や出前授業等、難関クラス生徒も参加できる機会があるとありがたい。 ●これから更に進化するICT教育に対応する教員の技術向上・スキルアップを期待したい。 ●様々な特色あるカリキュラムを導入して、一貫した人間形成の向上を目指す教育は評価できる。今後、AIの活用などによる教育のメリットとデメリットの見極めが重要となる。早期の基準作りが必要と考える。	B

○達成度 A: 充分達成 (100%) B: 概ね達成 (80%程度) C: 変化の兆し無し (50%前後) D: まだ不十分 (30%程度) E: 方策の見直し (20%未満)